

## 平成27年度 仙台大学大学院 授業概要

<b>授業科目名</b>	学習心理学特講 Current psychology of learning and instruction (L.)	<b>担当教員</b>	荒井龍弥/北村勝朗		
<b>領域水準コード</b>	A2,B2	<b>単位数</b>	2	<b>履修方法</b>	選択
<b>授業の方法</b>					
講義					
<b>授業の概要</b>					
指導者が最適な「育てかた」を模索していく際、さまざまな観点からの学習者の把握が欠かせない。このうち、学習者の「才能」「熟達」に関する把握や、学習内容に対する先入見、「学習観」などといった観点が重要である。これらについて最新の知見を紹介しつつ、学習研究の方法についても検討を加える。					
<b>授業の一般目標</b>					
学習者がもつ才能、熟達度の変化、学習観、先入見などについて一定の予想を立てることができる。また、それに基づいた効果的教育内容・方法の計画を立てられる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<input checked="" type="checkbox"/> 認知的領域	学習心理学における研究動向を理解できる。				
<input type="checkbox"/> 情意的領域					
<input checked="" type="checkbox"/> 技能表現的領域	学習者内要因把握のための調査原案を立てられる。				
<b>授業計画(全体)</b>					
授業はオムニバス方式(北村担当分と荒井担当分にわけ)で行う。北村担当分は集中で、荒井担当分は通常期に実施する。					
<b>授業計画(詳細)</b>					
回	授業テーマとその内容				
1	[テーマ] スポーツにおける学習と才能 [内容] 才能に関する諸理論にもとづき、スポーツの才能学習・育成について、具体例をもとに説明する。	9	[テーマ] 学習心理学と「概念」 [内容] 概念の諸側面(外延、内包、概念名辞)について、具体例をもとに説明する。		
2	[テーマ] 熟達化過程から捉える学習 [内容] エキスパート・スポーツ選手の熟達化過程を手がかりに、学習の過程としての熟達化理論を検討する。	10	[テーマ] 学習者のもつ「誤概念」 [内容] 学習者のもつ誤概念の事例について、説明するとともに、その修正の意義を検討する。		
3	[テーマ] 様々な領域における熟達化と学習 [内容] 音楽、芸術、科学領域のエキスパートの事例をもとに、熟達化に影響を及ぼす諸要因について検討する。	11	[テーマ] 学習者のもつ「誤概念」と法則 [内容] 学習者の誤りは単に「覚え間違い」「勘違い」などだけではなく、何らかの論理操作の所産であることを示す。		
4	[テーマ] 熟達化モデルの検証 [内容] 才能を開花させるための学習の方法について、具体例をもとにモデルの検証を行う。	12	[テーマ] スポーツ・体育における「誤法則」とは [内容] スポーツに関して学習者が持っている誤法則について例示し、その調査法について議論する。		
5	[テーマ] 才能の視点から捉える学習指導 [内容] 熟達化理論にもとづき、才能を最大限伸ばすための指導の在り方について検討する。	13	[テーマ] スポーツ・体育における「誤法則」修正の方略 [内容] 学習者のもつ「誤法則」を正しいものに「組み替える」方法について検討する。		
6	[テーマ] 熟達化を促進する学習指導実践 [内容] スポーツにおける学習指導の具体的な事例をもとに、学習者の熟達化に作用する指導実践を例示するとともに、その理論的裏付けについて検討する。	14	[テーマ] 学習者の「学習観」 [内容] 学習者が持っていてしまっている「学習観」について説明し、履修者自身ないし自身が関わる学習者の学習観を確認する。		
7	[テーマ] 様々な領域における学習指導実践 [内容] 音楽、芸術、科学領域における学習指導の具体的な事例をもとに、学習者の熟達化に作用する指導実践を例示するとともに、その理論的裏付けについて検討する。	15	[テーマ] 学習者の「学習観」を修正するために [内容] 学習者の学習観修正のための計画を、履修者自身の選択する学習領域にもとづき検討する。		
8	[テーマ] 才能と熟達化から捉える学習心理学 [内容] 才能を開花させるための学習の方法および指導方法について、履修者自身の課題意識にもとづき検討する。	16	[試験または課題] レポート課題 [方法] 北村担当分、荒井担当分別に課題を設定する。		
<b>授業外学習の指示等</b>					
提示された話題に関し、自分なりに回答してみる。また、それらをどうすれば効果的な学習に結び付けられるか、原案を作成してみる。					
<b>成績評価方法(方針)</b>					
随時レポートを課すとともに、ポートフォリオも点検する。レポート提出をもって定期試験に代える。					
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合 (%)	北村担当の集中は、全日程出席してほしい。
定期試験(期末試験)					
小テスト・授業内レポート	◎			25	
授業外のレポート	◎		◎	50	
ポートフォリオ	◎			25	
出席					
その他					
<b>関連科目</b>					
<b>教科書</b>			<b>参考書</b>		
<b>連絡先</b>					
荒井龍弥、tt-arai@sendai-u.ac.jp / 北村勝朗、東北大学大学院教育情報学研究部、kats@mail.tains.tohoku.ac.jp					